

にのみや おだわら 吾妻山公園の菜の花～曾我の梅林 ウォーキングマップ 約9kmコース



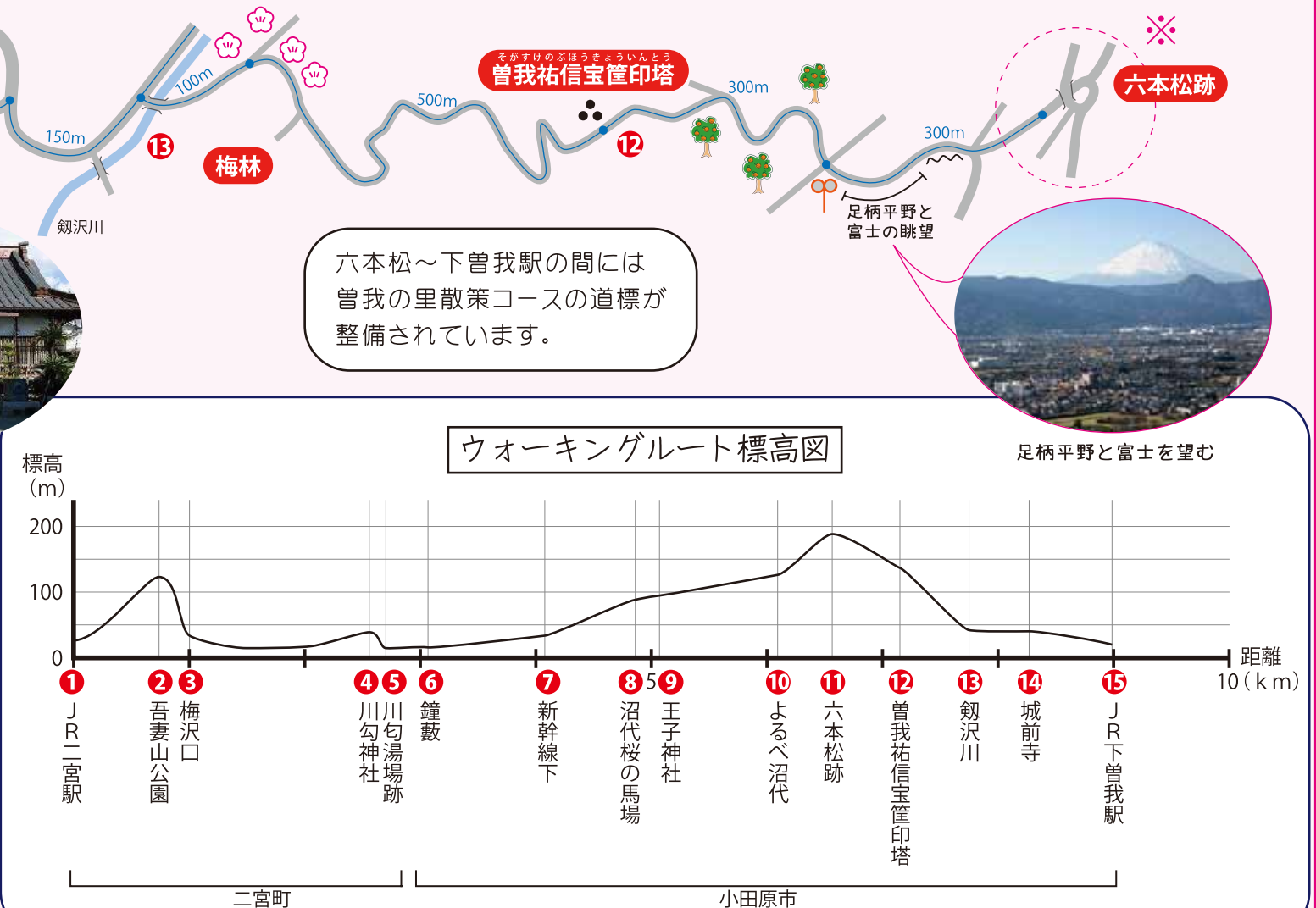
ウォーキングアドバイス

- ・車には充分お気を付け下さい。
- ・歩道や横断歩道がないところや細い道もありますので、一列歩行をお願いします。
- ・ゴミは各自お持ち帰り下さい。
- ・ウォーキング中の事故や負傷については、自己の責任において対応をお願いします。



凡例

- | | |
|--------|-----|
| カーブミラー | トイレ |
| 擁壁 | 梅 |
| ガードレール | みかん |
| バス停 | 旧跡等 |
| 鉄塔 | 桜 |



あづまやまこうえん

吾妻山公園



二宮町の中心に位置する 136.2mの吾妻山を昭和 58 年～ 62 年（1987）にかけて整備した都市公園です。散策道を抜けた山頂では緩やかな斜面に広がる芝生広場や雪を抱いた富士山を背景に広がる菜の花畑、碧く輝く相模湾には伊豆大島、そして遠くに伊豆半島や三浦半島・房総半島までが見渡せ、まさに 360 度の絶景を独り占めです。大気が澄んだ季節には伊豆七島の利島までが望める東海道沿線の隠れた穴場として人気を博しています。

また、花の公園として 1 月～ 2 月には約 60,000 株の菜の花が咲き、4 月には桜、5 月はつつじ、6 月はあじさい、7 月～ 8 月にはコスモスなど、それぞれの季節に豊かな彩りをお楽しみいただけます。

あづまじんじゃ

吾妻神社



創建は第 12 代景行天皇（在位 西暦 71 ～ 130 年）の時代だと伝えられます。言い伝えには日本武尊（景行天皇の第 2 子）が東征の途中、海路上総（千葉県）へ渡ろうとすると突如として暴風が起これ、妻の弟 橘媛命は海の神の怒りを鎮め、夫の武運を祈るため荒れる海へ身を投じるとたちまち海は穏やかになりました。その後、海辺に流れ着いた命の櫛と小袖を人々が山頂に運び埋めました。この場所が吾妻神社で

あり、前（うめさわ）一帯を埋沢、海岸を袖が浦と言うようになったと伝えられています。日本武尊が東北平定の帰路、相模の国から甲斐へでる途中の峠で遙か東の海を眺めながら「あずまはや（吾が妻の意）」と嘆き、亡き妻を偲んだところから命を祀った山を吾妻山と呼ぶようになったと言います。

かわわじんじゃ

川勾神社



延喜式（9 2 7 年）にみられる川勾神社は二宮明神社とも言い、創祀は第 11 代垂仁天皇（在位 前 29 ～ 70 年）の時代と伝えられ師長の国の一の宮でした。その後、相模の国が出来た時にその地位を寒川神社に譲ったと言われます。源頼朝ら鎌倉武士団や小田原北条一族の崇敬が厚く、小田原城の鬼門除守護神として保護されてきました。また徳川氏も代々よく信仰したと伝えられます。隋神門の左右に祀られている木像二軀は度重なる

兵火を潜りぬけた千年あまり前のものです。毎年五月五日には川勾神社を含め五社の神輿が神揃山（大磯町）へ集まる国府祭が有名で相模の国の一の宮を争う故事を今に伝えています。

陸軍 上原中佐 戦死の地碑



昭和 20 年（1945）2 月 17 日、朝から空襲警報下にあった当地に午前 10 時頃、攻撃を終えて南下してきた米軍の大編隊に陸士 52 期 第 22 航空戦隊長上原中佐（鹿児島県出身）が単機迎撃をしましたがこの地の上空で機は炎に包まれ、中佐は天蓋から身を乗り出し基地や皇居の方向に両手を上げて別れを告げ壮烈な戦死を遂げられました。（享年 28 歳）その姿は当地の人々に現在でも鮮烈に残っています。この碑は、故人を偲びその勇気を称えるため愛機（疾風）のプロペラ 4 枚の内（はやて）の一枚を掲げて建立したものです。遺影は福泉寺に納められ供養されています。

六本松跡



峠道（山彦山の峠道）で松の大木が 6 本あった事からこの名が付いたと言われています。鎌倉時代には、曾我氏、中村氏、松田氏、川村氏などの館と鎌倉を結び、足柄道、鎌倉道、大山道、箱根道が交わる重要な峠でした。建久 4 年（1193 年）5 月、日本三大仇討ちの一つである曾我兄弟の仇討ち物語では、兄の曾我十郎祐成と恋人の虎御前が仇討ちの前日、曾我郷と中村郷の境となるこの峠で悲しい別れをしたと伝えられています。因みに、足柄峠を古事記では足柄坂と記されていますが、古代は「峠」という字がなく境界にある坂ではこれから先の無事を祈り、帰りついた時には無事を感謝する「手向け」が行われていました。この「たむけ」が「とうげ」の語源と言われています。尚、「峠」という字は国字です。

《ほととぎす 鳴くなく 飛ぶぞいそがはし》芭蕉 《人の知る 曾我中村や あを嵐》白雄

じょうぜんじ

城前寺



曾我兄弟ゆかりの寺で曾我城の大手前に位置するのでこの名があります。建久 4 年（1193 年）富士の裾野で父の仇を討った兄弟の遺骨を叔父の宇佐美禅師がこの地に携え庵を結び菩提を弔ったのがこの寺の始まりと伝えられます。境内には十郎、五郎、父 祐信、母 満江御前の供養塔があります。兄弟が討ち入りの時に傘を燃やして松明とした古事に因み、毎年 5 月上旬には地域で傘を焼き霊を慰める傘焼まつりが行われます。

お問い合わせ

二宮町観光協会

〒259-0123 神奈川県中郡二宮町二宮 961（町民センター内）

TEL/FAX：0463-73-1208

ホームページ：http://shonan-ninomiya-kankou.com

編集・発行 二宮町観光協会

この印刷物の全部または一部を無断で複製使用する事を禁じます。